

1. 実践研究テーマ

児童生徒の学ぶ意欲向上のための授業改善（自分の強みを伸ばし、協働的に学び合う教職員集団）

2. 取組の内容（協力校等との連携等を含む）

R4年度の取組

- ・コグトレ（全学年）
- ・「めあて」掲示の徹底
- ・参観時の共通様式（3校）

○校内研修を充実させるための「組織づくり」

- ・（昨年度）全体での研修、低・中・高学年団で研修を実施。
- （今年度）①全体での研修、②全教職員を学年団に分けた研修組織、③異なる学年の教職員等で分けた研修組織「縦割りチーム」（3種類の研修組織を内容に合わせて柔軟に活用）



○「縦割りチーム」の効果的な活用をめざして

→生徒指導面、学力向上実行プランの作成・見直し、全国学力テスト・ステップアップテストの振り返り等の場面で活用

→研究授業の準備から授業研究会の運営までを「全教職員で分担」（試行）

- ・「縦割りチーム」を活用し、全員が関わるように工夫

- ◇指導案作成チーム
- ◇発問・提示資料の準備・研究チーム
- ◇授業研究会の準備・研究チーム

- ・授業研究会における工夫

- ①「縦割りチーム」をベースにしたワークショップ形式の研究会
- ②「学年団」に分かれて、研究授業の成果や課題を生かすための実践案を立てる



○「学年タイム（10分間）」の有意義な活用をめざして（3学期試行→次年度につなぐ）

- ・発達段階に応じた一貫した取組。児童が自分自身と対話し、主体的に取り組む機会の設定。
- ・児童：「自らの課題を見つける→計画→実践→振り返り→計画・・・」
- ・教職員：他の学級や学年の様子や取組を知る機会にする。資料や枠等の共有を可能にする。

3. 取組の成果

○ 教職員の変容

○複数の研修組織の設定

研修の内容や活用の効果を考え、組織を柔軟に選択することで、研修後に学びを生かすやすくなった。

○「縦割りチーム」の活用

- ・学年等を超えた意見交換ができ、他学年の様子や発達段階を加味しつつ、学力向上のための取組案や企画や実践・運営に繋がった。
- ・次年度を見越した教科指導へと意識が向上。
- ・協力校の先生方も研修に参加しやすく、中学校の様子や他小学校の様子も刺激になった。

○「学年タイム」の活用プラン

校内研修の活性化をめざす中で、気づきや課題をそのままにしない意識が高まった。

○「メンター研修」

自主的な内容の充実に繋がり、即実践に。

○ 児童生徒の変容

○「めあて」と「まとめ」の提示

- ・単元(題材)や各時間のイメージをもちやすい。
- ・苦手な教科のノートがまとめやすくなった。

○「縦割りチーム」の活用、「メンター研修」

- ・他学年の児童の様子を教職員が知る機会が増えたことで、委員会やクラブ活動以外の場面で教職員からの声かけが増え、他学年の教職員との関わりが増えてきた。

○「学年タイム」

- ・コグトレや計算・漢字練習、試写・要約など、発達段階に応じて系統立てた取組を提示したり、各自の苦手な部分に応じて、自分のペースで取り組んだりすることで、自分自身で考える場面が増えてきている。